

【事業名】24.ボランティアセンターにおけるボランティア活動相談、情報提供、コーディネート等								
行政側の自己評価	事業実施	B	評価の理由	課題への取組	A	評価の理由	連携への取組	A
			要請162件、希望1,170件、相談件数6,153件。ボランティアニーズはwebサイトを活用し、市民への情報提供ができた。ボランティア登録団体616団体(41,823名)、個人171名。ボランティア募集冊子毎月500部発送、広報誌年4回2,000部。			ホームページでの情報発信をはじめ、相談しやすい環境を作り、広く広報したことで、メール等での問い合わせが増えた。		
アンケート先評価	事業実施	≡	評価へのコメント	課題への取組	≡	評価へのコメント	連携への取組	≡
			コロナ禍の那賀でも、ボランティアの希望はありながら、受け入れ先がなかなか無く繋ぐことが出来なかった。			ボランティア募集冊子は毎月発行していたが、また、ホームページ、携帯などで市民が探しやすい環境を整えても、コロナ禍で受け入れるところは殆ど無かった。		
アンケート先からの事業への課題		ボランティア活動の登録者を、要請があったときに小まめに繋ぐシステムが弱いように思います。						
アンケート先からの事業への要望		ボランティアの受発信に力を入れ、活動者が希望のボランティアに繋げるシステムの構築が必要と思います。						

【事業名】28.依存症本人向けデイケア「アディクション回復支援コース」								
行政側の自己評価	事業実施	A	評価の理由	課題への取組	A	評価の理由	連携への取組	A
			令和3年度より当センターデイケアにアディクション回復支援コースを開設し、回復支援プログラムを月2回実施した。			・各区、各支所、関係機関等に周知を行う。		
アンケート先評価	事業実施	?	評価へのコメント	課題への取組	?	評価へのコメント	連携への取組	?
			当該事業の実際についての評価に足る情報が当方にはないため			当該事業の実際についての評価に足る情報が当方にはないため		
アンケート先からの事業への課題		県内において依存症の治療回復に資するプログラムを実施している機関は大変限られている。よって住民の利便性、地域性、選択性などを考慮して関係機関の連携を図ることが課題解決に必要と考える。						
アンケート先からの事業への要望								

